

新型コロナ感染拡大防止に全力 命と暮らし・営業継続できる対策を



日本共産党道議団は現場の声を聞き、切実な声に応えて、道民要望の実現を切り開いてきました。

- ① 感染防止、医療現場を守るため、PCR 検査の抜本的拡充とマスクなどの医療資材の確保・提供
- ② 自粛やイベント中止などによる中小企業・自営業者の営業損失の補償、雇用対策、相談体制の強化
- ③ 休校に伴う成長と学びの保障に万全を期し、教育格差が広がらないよう対策を！

これらを柱に、第一回定例会の論戦に臨みました。

2月18日に続き4月17日に新型コロナ対策緊急要望を行う日本共産党道議団

#自粛と補償はセットで

地域経済守れ

1回だけでなく更なる支援を

新型コロナウイルスの影響で、北海道の地域経済は疲弊しています。菊地葉子議員は、28日の臨時議会で、今回の支援だけでなく、更なる支援を求めました。

知事は、切れ目のない対策を講じていくと答えました。



一斉休校による教育格差

拡げない対策を

インターネット授業が高校・大学から始まり、小中学校などでも活用がすすんでいます。

真下紀子議員は、教育格差が広がらないよう、ネット環境のない生徒への環境整備と支援・配慮を求めました。



国保の傷病手当金

全道に改正促す

宮川潤議員は、新型コロナウイルス感染症による傷病手当金が国保でも受けられるようになったことを示し、道として各市町村に実施の働きかけを行うべきと迫りました。

道は、市町村に対して、条例改正を求めていくと答えました。



日本共産党道議団

道議会報告〔2020年 春季号〕

発行：日本共産党北海道議会議員団 〒060-0002 札幌市中央区北2条西6丁目
mail: info@jcp-do.com
ご意見をお寄せください TEL 011-204-5915 FAX 011-232-4763



労働者に対する支援の充実を

道内では、解雇や賃金カットをされた労働者が日に日に増えています。菊地議員は、臨時職員として採用するなど取り組むべきと知事に迫りました。知事は道独自の雇用対策を推進していくと答え、臨時職員の採用が実現しました。また、新型コロナウイルス対策の財源は全庁あげた不要不急の事業見直しで、ねん出することを提案しました。

事業継続のための大胆な支援を

緊急事態宣言で、休業を余儀なくされる事業者が増えています。

真下議員は、知事の宣言以降ぱたりと客足が止まり、深刻な影響が出ている業種が広がっていると指摘。税・保険料支払いの猶予、雇用の確保家賃・リース代の補助や、各種申請に対する柔軟な対応など、あらゆる手立てと大胆な財政措置を行うべきと迫りました。



一刻も早いマスク・医療資材の提供を

宮川議員は、新型コロナウイルスによる医療崩壊から医療機関を守るためにも、マスクなどの医療資材を確保し、提供していくことを求めました。

道は臨時議会で、医療資材を独自に確保して各医療機関に配布し、引き続き安定供給を国に対して求めていくと答えました。

現場の声にこたえて 政治を動かす

国が重い腰を上げ、一律10万円の給付金と、業者の休業協力金の実現できたことは、道民の声があってこそ実現したことです。日本共産党道議団が議会質問・要望等で求めた施策が実現してきました。

- マスク・医療資材の不足している医療機関・介護施設に対して優先的に配布する
- 患者が発生した所管の保健所に保健師を派遣
- 道独自の休業支援の実施
- 税・保険料の支払い猶予
- 国保加入者に対する傷病手当金の支給と対象の拡大
- 道独自の緊急雇用対策を実施し、臨時職員100名程度を雇用

5月4日に緊急事態宣言が延長されました。当然新たな支援が必要になります。

日本共産党道議団は、営業継続できる規模の支援金と家賃等の固定費の支給、非正規労働者や学生等に対する支援、医療現場職員への危険手当などの実現に向けて、引き続き道民の声を聞き、議会で声をあげていきます。



昨年の第3回定例会に提案された「国会における憲法議論についての意見案」に対する反対の立場から質疑・討論、「表現の自由」にかかわる「道警ヤジ排除」問題追及をパンフレットにしました。

※ご希望の方は道議団控室・各議員事務所まで連絡ください。

道政・新型コロナに関するご相談をお寄せ下さい

菊地葉子事務所

小樽市稲穂1-12-205

真下紀子事務所

旭川市3条16丁目左7号

宮川じゅん事務所

札幌市東区東苗穂7条3丁目6-3